

196 十字架への道

マタイによる福音書 27 : 27~31、マルコ 15 : 16~20、ヨハネ 19 : 2~3

ルカによる福音書 23 : 26~33、マタイ 27 : 32~33、マルコ 15 : 21~23、ヨハネ 19 : 16b~17

▶兵士から侮辱される (マタイによる福音書 27 : 27~31)

27 それから、総督の兵士たちは、(鞭打ちを受け、出血し、ボロボロの状態になった) イエスを総督官邸 ⑦に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。

28 そして、イエスの着ている物をはぎ取り、(ローマ兵の) 赤い外套 (→a scarlet robe 緋色の着物/マント、ケープ) を着せ、29 茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、

その前にひざまずき、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、侮辱した。

30 また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭をたたき続けた。

31 このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行った。

→茨(荊)で作った冠=「荊冠(けいかん)」



▶十字架につけられる (ルカによる福音書 23 : 26~33)

26 人々はイエスを引いて行く途中、**シモン** (→マルコ 15 : 21) というキレネ人が畑から帰って来るのを捕まえて、十字架を背負わせ、イエスの後から付いて行かせた。
→キレネ(=キュレネ)は北アフリカの町。シモンは恐らくユダヤ人で、過越祭と除酵祭を祝うためにエルサレムに来ていた。

27 大勢の民衆と嘆き悲しむ女たちが、イエスに従った。
(泣き女)

28 イエスは女たちの方を振り向いて言われた。

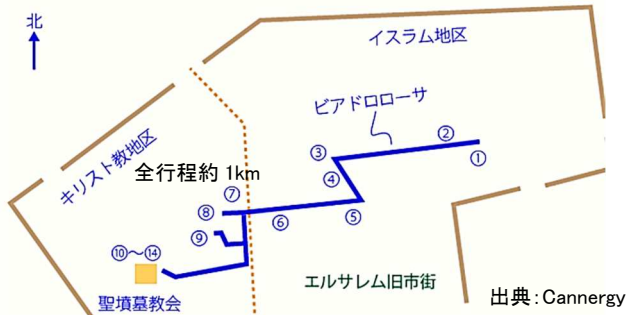
「エルサレムの娘たち、私のために泣くな。(これから色々悲惨なことが起こる。) **自分と自分の子どもたちのために泣け**。29 人々が、『不妊の女、子を生んだことのない胎、乳を飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来るからである。30 その時、人々は山に向かって／『我々の上に崩れ落ちよ』と言い／丘には／『我々を覆え』(→死にたい) と言い始める。31 **生木** (→イエス・キリスト) **でさえこうされるなら、枯れ木** (→イエスを拒む人たち) **は一体どうなることだろう。**」



出典(図): バイブルガイド(いのちのこぼ社): 地名等は口語訳表記

32 ほかに、二人の犯罪人がイエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。

【参考】 ヴィア・ドロローサ Via Dolorosa (ラテン語で「苦難の道」)



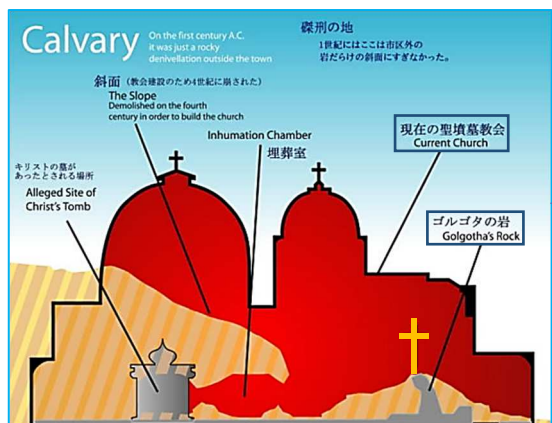
- 第1 Sta : ピラトの官邸
- 第2 Sta : 鞭打ちの教会
- 第3 Sta : イエスが最初につまづいた場所
- 第4 Sta : マリアの教会
- 第5 Sta : シモンがイエスに代わり十字架を背負う場所
- 第6 Sta : ベロニカの教会
- 第7 Sta : イエスが2度目に倒れた場所
- 第8 Sta : 聖ハラランボス・ギリシア聖教会
- 第9 Sta : 聖墳墓コプト教会
- 第10~14Sta : 聖墳墓教会

出典: Cannery

33 「されこうべ」(→ゴルゴタ⑧)と呼ばれている所(→刑場)に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。

→されこうべ：髑髏、「どくろ」とも読む。＝ゴルゴタ Golgotha。アラム語のグルガルタ gulgalta に由来するギリシア語で、丘の地形からそのように呼ばれた。

ラテン語で「カルヴァリア Calvaria」、英語で「カルバリ Calvary」とも言い、一説には、現在の旧市街の中央部にある聖墳墓教会の場所とされている。



←聖墳墓教会等の場所の断面図

出典(図) : Mapping Cultural Space Across Eurasia

→マタイによる福音書 27 : 34

苦いものを混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲もうとされなかった。

→苦いものを混ぜたぶどう酒は、痛みを和らげるために、収斂(しゅうれん)、鎮痛作用がある「没薬」や牛の「胆汁」などが混ぜてあり、これを飲むと意識がもうろうとする。しかし、イエスはそれを拒否した。それは、十字架上で意識を鮮明に保ち、十字架刑の痛みを体験し、そして、十字架上で言葉を発し、祈りをするためであった。

【参考】 聖書に登場する「されこうべ」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 4 / 聖句等の総数 33250 <されこうべ>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : されこうべ]
S マタイによる福音書	27:33 そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、	
S マルコによる福音書	15:22 そして、イエスをゴルゴタという所——その意味は「されこうべの場所」——に連れて行った。	
S ルカによる福音書	23:33 「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。	
S ヨハネによる福音書	19:17 イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。	

【参考】 茨(いばら)

キリストは受難において、茨（いばら）の冠を頭にかぶらせられました。

この茨は、エルサレム周辺でも簡単に見つかるイスラエル原産のバラ科の常緑樹「トゲワレモコウ」（＝シラー、トゲハマナツメ）とされています。

「トゲワレモコウ」は、とげ（棘：➡部分）が長く硬いので、今でも有刺鉄線のように使われ、侵入防止の柵にからめたり、羊を守る石垣の上に置いて、獣の侵入を防ぐのに役立っているそうです。



聖書（創世記）では、いばらは最初の人アダムとエバが、エデンの園で罪を犯した結果、地面から生え出てきたものであると記されています。

→創世記 3：17～18

神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い／取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して／土は【茨】とあざみを生えいでさせる／野の草を食べようとするお前に。堅いとげでチクリと刺すいばらは、私たち人類の罪を象徴するものになりました。

聖書には「茨」が 53 回、48 聖句に登場します（旧約：37 回／35 聖句、新約：16 回／13 聖句）。

【参考】 新約聖書に登場する「茨の冠 a crown of thorns」についての聖句

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：4 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S マタイによる福音書	27:29 茨で冠を編んで頭に載せ、また、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、「ユダヤ人の王、万歳」と言って、侮辱した。	
S マルコによる福音書	15:17 そして、イエスに紫の服を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、	
S ヨハネによる福音書	19:2 兵士たちは茨で冠を編んでイエスの頭に載せ、紫の服をまとわせ、	
S ヨハネによる福音書	19:5 イエスは茨の冠をかぶり、紫の服を着けて出て来られた。ピラトは、「見よ、この男だ」と言った。	

【参考】 トゲワレモコウ

バラ科サルコポテリウム属、常緑低木、学名：Sarcopoterium spinosum、原産地：イスラエル
は目からみるとトゲの塊のような小さな樹木。実はキリストの茨の冠に使われたという伝承のある植物である。イスラエルなどでは乾燥地から湿地までいたるところに生えているという。火力があり、火の焚き付けに使うと大きな音をたてるらしい。トゲが鋭いので、現地では羊よけなどに植えるという。日本ではあまり見られない珍しい植物である。キリストの茨の冠に使われたといわれる植物は、他に「キリストイバラ」という植物（現存？）があり、どちらかははっきりしない（東京都薬用植物園）。